

<事例概要>

氏名・性別	仙台 若葉 (女性)
生年月日	S 3 3. ○月○日生 (60 歳)
家族状況	父：認知症で施設入所中 母：幼少期に病没 弟：疎遠、音信不通 子：なし
住居	賃貸 集合住宅
生活状況	<p>N 市生まれ。中学校卒業してから飲食店で働いていた。</p> <p>10 代後半に東京に修行に行き、20 代半ばで出店のため仙台に転居し結婚をした。40 代前半で自己破産をし、その後、離婚し店をたたむことになった。自己破産に伴う金銭トラブルから、弟、親戚（伯父）とは疎遠・音信不通になり、父と 2 人暮らしをするようになった。</p> <p>10 年ほど前から父に認知症症状出現。父の介護をしながら仕事をしていたが、59 歳の時に心筋梗塞を発症し、入院・手術することになったため、父を施設に入所させ独居となる。</p> <p>退院後は、術後の体力低下・易疲労感のため仕事が続かず退職した。その後、自らの医療費等で生活が困窮、借金をして生計を立てていた。その後も仕事が見つからず父の年金で生活するようになった。父の施設費用は利用開始時から未払い。家賃の支払いも滞るようになり、医療費の支払いも厳しく、内科通院も途絶えていた。最近では自宅に引きこもりがちとなり、食生活も不規則で健康不安と金銭不安から強く落ち込むようになっていた。</p> <p>生活習慣（嗜好物）タバコ 1 日 4 本程度 アルコール飲酒；なし</p>
経済状況等	<p>収入は父の年金。</p> <p>医療保険は、退職後国保の手続きをしていなかった。</p>
自殺企図について	<p>自宅に引きこもりがちとなり、食事も食べられなくなっていた。弟や親戚とは疎遠で、誰にも相談できないなかで自分の身体の事や借金のことなど将来への不安が募っていった。父を道連れに自殺しようとロープや刃物を用意し家を出たが、父の道連れは思いとどまり、商業施設屋上から飛び降りた。落下音に気付いた店員に救急要請され当院に搬送となった。</p>
現病歴	<p>狭心症</p> <p>うつ病、腰椎骨折（当院搬送後）</p>